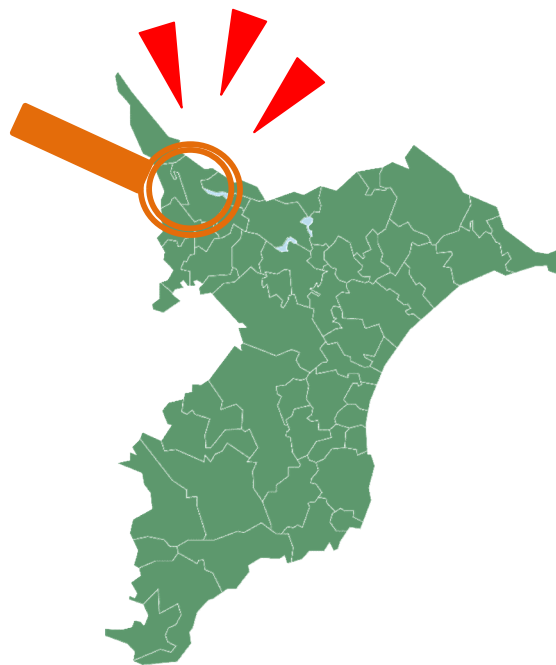


2026・7

柏の景気情報

令和8（2026）年7月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

T E L : 04-7162-3305

F A X : 04-7162-3323

U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E - m a i l : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報 (令和8年7月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

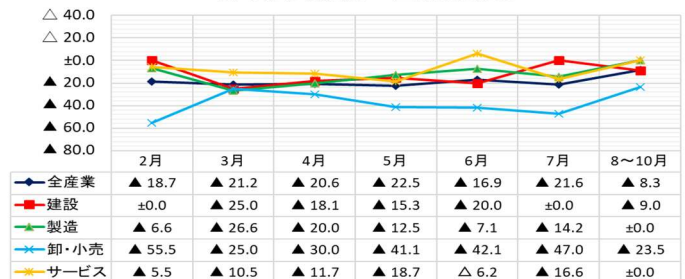
回答期間：令和8年7月22日～令和8年8月3日 調査対象：柏市内173事業所及び組合にヒアリング、回答数60

物価上昇や人手不足が続く中、猛暑・天候に左右され、業種間で明暗が二極化

7月の全産業合計の業況DI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲21.6（前月水準▲16.9）となりマイナス幅が4.7ポイント拡大した。

各業界、物価上昇等のコスト増が続いている。注文数や客足が少なくなり、各業界を逼迫している。今後は天候などの外的要因を注視する必要がある一方、コスト増の影響をどう価格転嫁するのか、各業界の課題となっている。

柏の景気情報・産業別業況DI



★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

建築費上昇に加え、住宅ローン金利の先高観から一次取得層の買い控えが進んでいる。検討期間が延び、契約までのリードタイムが長期化している（一般土木建築工事業）昨年より売上が悪化している要因としては、梅雨明け前後での様々なイベントやボランティア活動が重なり、営業活動が低調だった事が原因だった。また、採算性の悪い業務も重なったため、採算性を向上させることに注視したい。（地質調査・地質コンサルタント）



製造業

医療品容器に新企画が立ち上がり活気を帯びてきたが化粧品容器に関しては、まだ勢いに欠ける。（プラスチック加工）
イランの状況と原油価格の状況で不安定要素はあるが現状は景気上昇傾向である。（一般産業用機械・装置製造業）



卸・小売業

6月の最高気温が昨年より5℃前後低くなり夏物の動きが業界全体で悪く、自店も衣料品と住居余暇商品で大きな打撃を受けた。その他、食料品では米と飲料とアイスのマイナスが大きく、とてもカバーできるものではなかった。7月の第2週目より最高気温が30℃を超え出し夏物が一気に動いている。例外は水着と浴衣で動きは重い（浴衣は柏祭りの日程変更が考えられる）7月の売上予算は確保の見込みだが6月のマイナスまでは取り返せない。（大型小売店）
前年と比較ならほぼ毎月悪化している状況。（その他の各種商品小売業）



サービス業

9月に丸井跡テナントがnewオープンするので駅前が再び活気あふれるのが嬉しい。（不動産賃貸業）
猛暑の影響によりお客様の来場は鈍い。また、住宅金利が上昇している事や、土地や建物の価格の高騰により購買意欲が低くなっている。全体的に顧客の動きは減少しています。（不動産管理業）

★全国の商工会議所早期景気観測調査（CCI-LOBO）との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲21.6に対し、「CCI-LOBO」が▲21.2で、柏のほう为全国平均と比較して0.4ポイント下回っている。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業である。

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 21.6	 ± 0.0	 ▲ 14.2	 ▲ 47.0	 ▲ 16.6
CCI-LOBO	 ▲ 21.2	 ▲ 18.2	 ▲ 18.0	 ▲ 28.6	 ▲ 19.7
売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 21.6	 ± 0.0	 ▲ 14.2	 ▲ 47.0	 ▲ 16.6
CCI-LOBO	 ▲ 6.8	 ▲ 20.1	 1.6	 ▲ 13.0	 ▲ 3.0
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 28.3	 ± 0.0	 ▲ 14.2	 ▲ 70.5	 ▲ 16.6
CCI-LOBO	 ▲ 21.8	 ▲ 23.1	 ▲ 17.4	 ▲ 28.3	 ▲ 23.3
仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 65.0	 ▲ 54.5	 ▲ 78.5	 ▲ 82.3	 ▲ 44.4
CCI-LOBO	 ▲ 72.4	 ▲ 80.9	 ▲ 73.8	 ▲ 70.9	 ▲ 68.6
従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 21.6	 45.4	 14.2	 ± 0.0	 33.3
CCI-LOBO	 20.4	 36.4	 13.5	 15.9	 23.3
資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 8.3	 ± 0.0	 ▲ 7.1	 ▲ 17.6	 ▲ 5.5
CCI-LOBO	 ▲ 13.6	 ▲ 7.1	 ▲ 14.5	 ▲ 19.0	 ▲ 13.8

CCI-LOBO

商工会議所早期景気観測(7月速報)

調査期間：2026年7月15日～22日

調査対象：全国の326商工会議所が2,455企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、中東情勢の影響が一段と和らぎ改

善

先行きは、物価高や猛暑が重荷で、慎重な見方統

く

全産業合計の業況DIは、▲21.2(前月比+1.0ポイント)

全業種において中東情勢の緊迫化に伴う仕入価格の上昇等の影響が依然として見られるものの、供給制約面を中心に、その悪影響は前月と比べて一段と和らいでいる。

こうした中、建設業では一部で価格転嫁に進展がみられ改善したほか、製造業でも「半導体関連を中心とした設備投資需要がけん引し、改善した。一方、サービス業では物価高に伴う消費の冷え込みに猛暑による外出控えが重なり、悪化した。

自治体による物価高対策の下支え効果が一部で見られるものの、物価高の長期化と猛暑の影響から、消費マインドの低迷が続いている。

先行き見通しDIは、▲21.2(今月比+0.0ポイント)

先行きは、自治体による物価高対策や高水準での賃上げが下支えとなる中、夏休みや各種イベント開催に伴う一時的な需要の拡大が期待される。

一方で、一進一退をたどる中東情勢に対して事態の長期化・悪化を危惧する声が増加している。また、終わりの見えない物価高に伴う消費マインドの一段の弱含みや、猛暑による外出控えも重荷となっており、先行きに対しては慎重な見方が強まっている。

【建設業】

「発注者によって価格転嫁に対する理解や対応にばらつきはあるものの、全体としては着実な進展がみられる」(舗装工事業)

「資材価格の上昇や人手不足等の厳しい状況は変わらないが、足もとで受注は回復傾向にある。今後は猛暑にお

ける対応が課題となるが、国や自治体から猛暑対策に係る具体的な指針が示されたことで、柔軟な対応が可能となった」(一般工事業)

【製造業】

「半導体や造船関連の受注が好調に推移しており業績は改善しているが、人手不足により生産が間に合っていない。猛暑で稼働が落ちる前に前倒しで製造を強化したいが、働き方改革の影響もあって思うように生産を増やせない」(鉄鋼業)

「ナフサ由来の原材料について、今年度製造分の仕入は目途が立ったが、価格高騰が続けば業績への影響が懸念される」(産業用機械製造業)

【卸売業】

「供給面の品不足は落ち着きつつあるが、価格高騰には歯止めがかかっていない。得意先の警戒感も強まっており、これ以上の価格上昇が進めば、買い控えは避けられない」(包装資材卸売業)

「仕入や物流費等の値上げが五月雨式に続いている。一度にまとまって改定されるわけではないため、価格転嫁時期の判断が難しい」(家具・建具卸売業)

【小売業】

「地域商品券の利用が売上を押し上げる一方、猛暑による客数減を補うため、ポイント付与等の独自キャンペーンで来店を促進している」(化粧品小売業)

「中元離れや物価高を背景に、中元商戦は毎年5～8%の売上減少が続いているが、今年も厳しさが際立つスタートとなった。こうした状況を受け、今後は従来のスタイルにとらわれないことなく、中元売り場を縮小して催事へシフトするなど、の対応を本格的に検討していく」(百貨店)

【サービス業】

「当地では民泊等の増加に伴う供給過多を背景とした価格競争が進行している。これにより、客数が回復しても適正な価

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
2月	▲16.8	▲13.6	▲13.6	▲23.5	▲24.8	▲13.0
3月	▲20.0	▲15.5	▲19.1	▲30.2	▲25.1	▲15.1
4月	▲21.9	▲17.7	▲23.0	▲23.1	▲23.5	▲8.6
5月	▲24.3	▲24.8	▲22.6	▲30.8	▲30.7	▲18.0
6月	▲22.2	▲22.7	▲20.6	▲24.5	▲29.2	▲17.5
7月	▲21.2	▲18.2	▲18.0	▲24.0	▲28.6	▲19.7
見通し	▲21.2	▲15.7	▲19.9	▲26.2	▲29.1	▲18.1

格転嫁が進まず、利益率が悪化している。また猛暑や酷暑に伴う外出控えの報道が、一層の需要低下を招いている」(旅館)

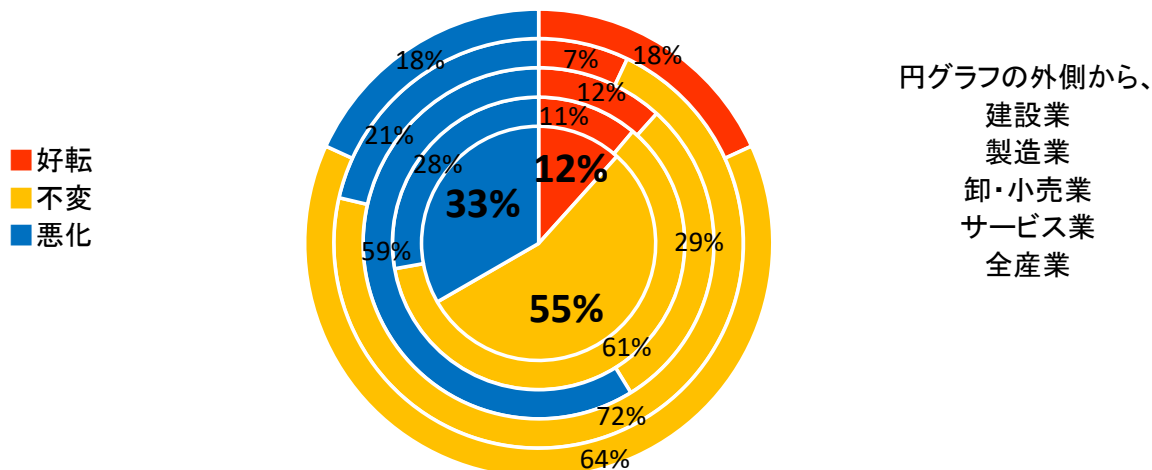
「これから夏休みの本格化や各種イベントの開催等による需要の拡大を期待しているが、猛暑や台風など天候不順による悪影響が懸念材料」(飲食店)

令和8年（2026年）7月の動向

【業況について】

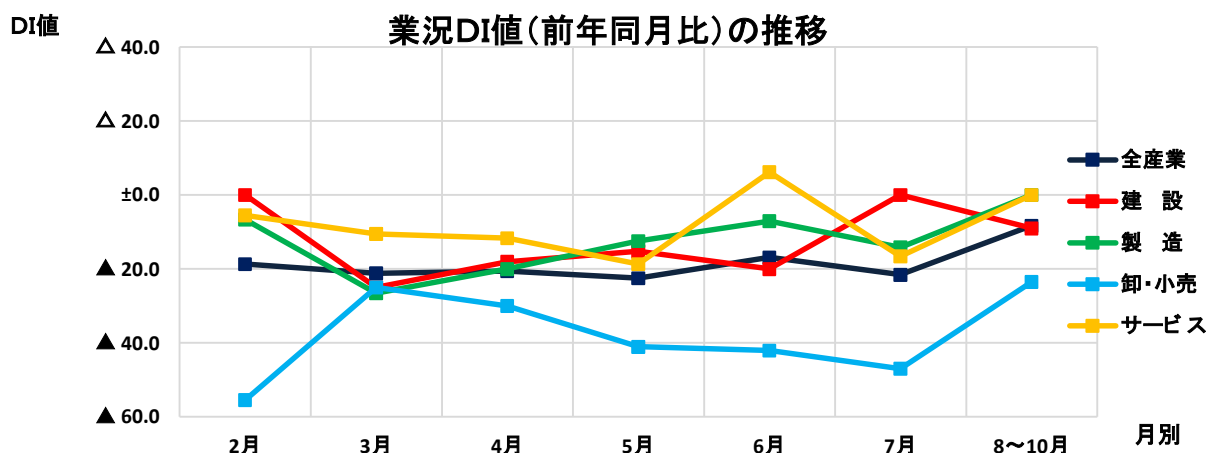
- 7月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲21.6（前月水準▲16.9）となり、マイナス幅が4.7ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月（8月から10月）の先行き見通しについては、全産業では、▲8.3（前月水準▲13.5）となり、マイナス幅が5.2ポイント縮小した。

前年同月と比較した今月の業況について



業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI＝「好転」の回答割合－「悪化」の回答割合

	令和8年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月（ 7～9月 ）
全産業	▲18.7	▲21.2	▲20.6	▲22.5	▲16.9	▲21.6	▲8.3（ ▲13.5 ）
建設	±0.0	▲25.0	▲18.1	▲15.3	▲20.0	±0.0	▲9.0（ ▲40.0 ）
製造	▲6.6	▲26.6	▲20.0	▲12.5	▲7.1	▲14.2	±0.0（ ▲7.1 ）
卸・小売	▲55.5	▲25.0	▲30.0	▲41.1	▲42.1	▲47.0	▲23.5（ ▲5.2 ）
サービス	▲5.5	▲10.5	▲11.7	▲18.7	△6.2	▲16.6	±0.0（ ▲12.5 ）

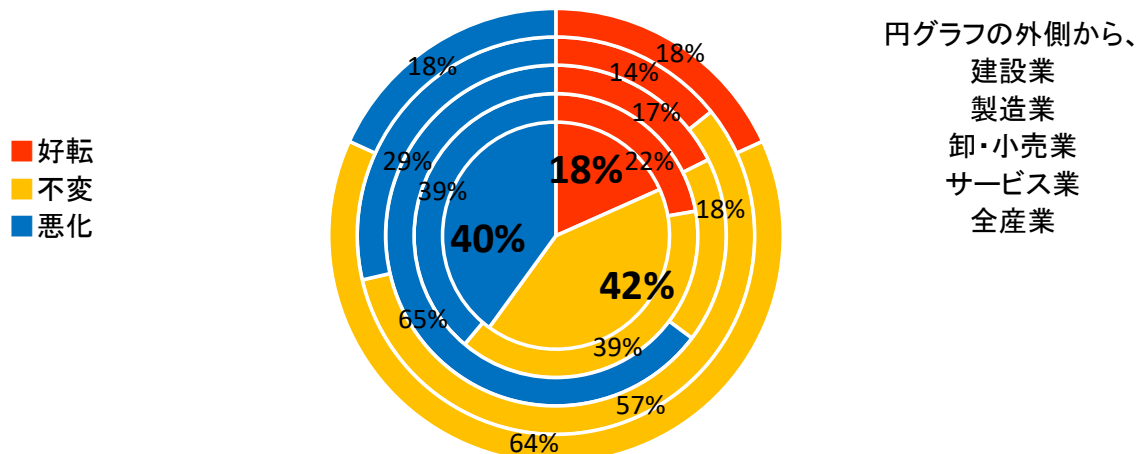


【売上について】

○7月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.6(前月水準▲16.9)となり、マイナス幅4.7ポイント拡大した。

○向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲1.6(前月水準±0)となり、マイナス幅が1.6ポイント拡大した。

前年同月と比較した今月の売上について

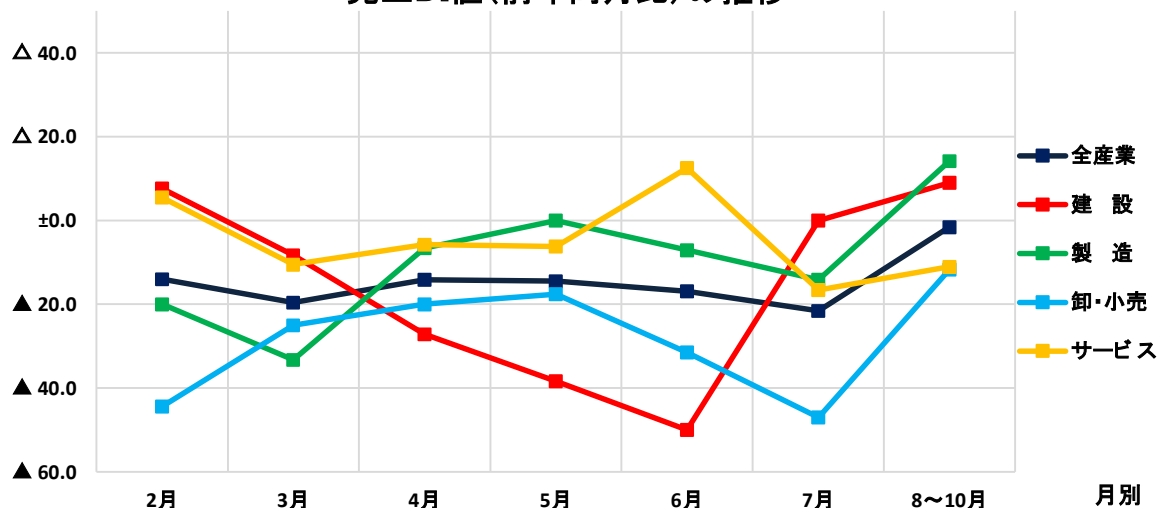


売上D I 値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和8年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月 (7~9月)
全産業	▲ 14.0	▲ 19.6	▲ 14.2	▲ 14.5	▲ 16.9	▲ 21.6	▲ 1.6 (±0.0)
建 設	△ 7.6	▲ 8.3	▲ 27.2	▲ 38.4	▲ 50.0	±0.0	△ 9.0 (▲ 20.0)
製 造	▲ 20.0	▲ 33.3	▲ 6.6	±0.0	▲ 7.1	▲ 14.2	△ 14.2 (△ 14.2)
卸・小売	▲ 44.4	▲ 25.0	▲ 20.0	▲ 17.6	▲ 31.5	▲ 47.0	▲ 11.7 (±0.0)
サービ ス	△ 5.5	▲ 10.5	▲ 5.8	▲ 6.2	△ 12.5	▲ 16.6	▲ 11.1 (±0.0)

DI値

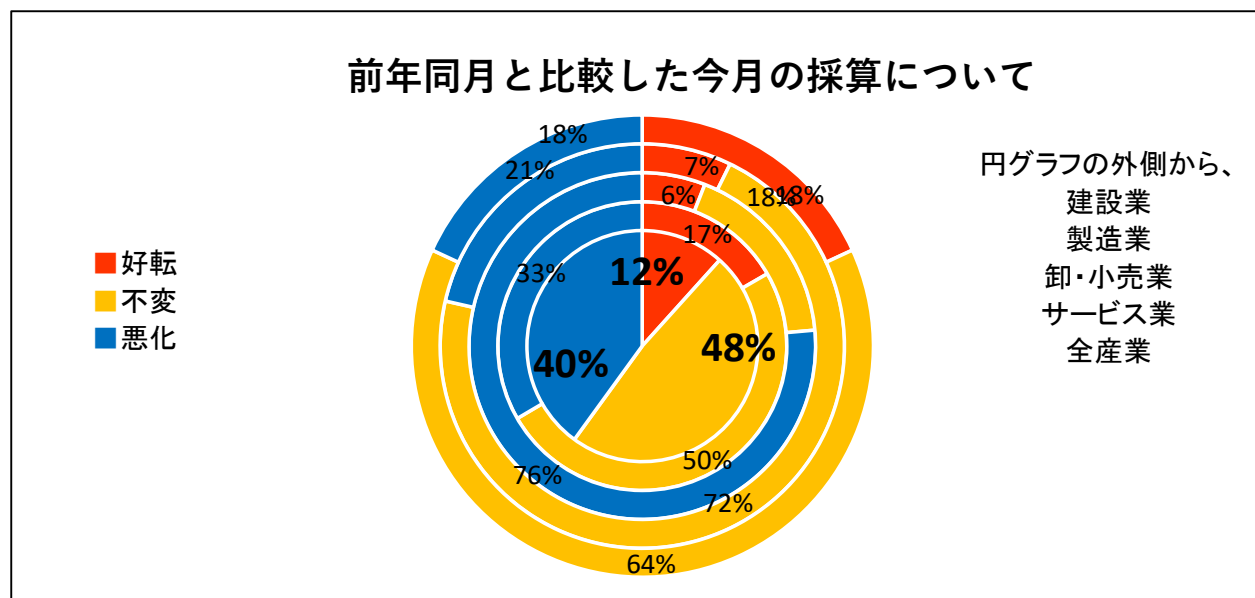
売上DI値(前年同月比)の推移



【採算について】

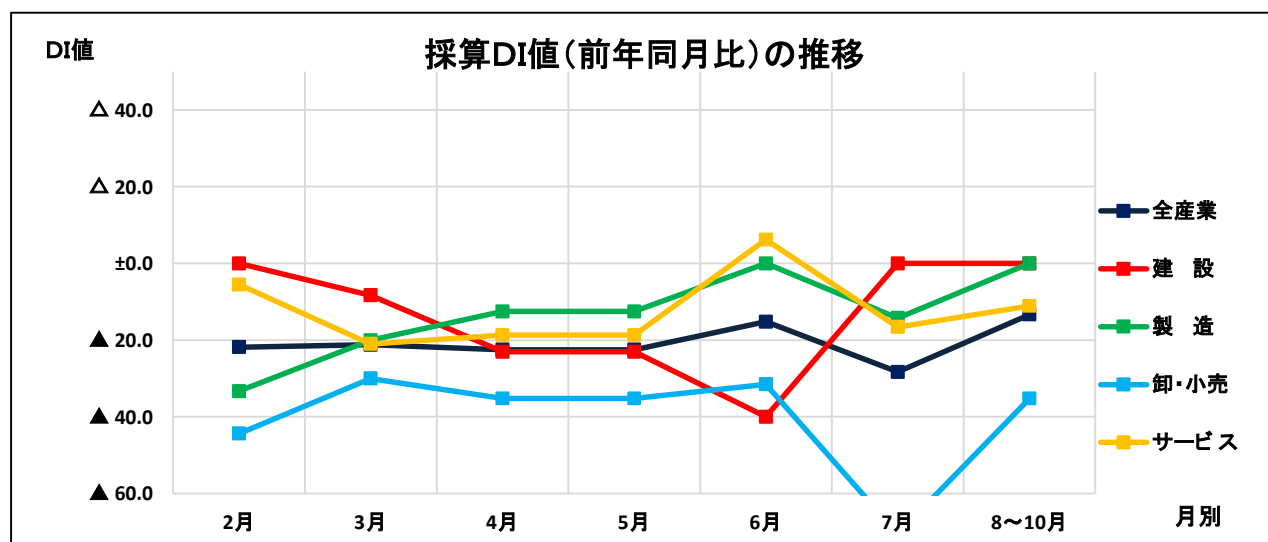
○ 7月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲ 2 8. 3 (前月水準▲ 1 5. 2) となり、マイナス幅が1 3. 1 ポイント拡大した。

○ 向こう3 ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲ 1 3. 3 (前月水準▲ 1 1. 8) であり、マイナス幅が1. 5 ポイント拡大した。



採算D I 値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

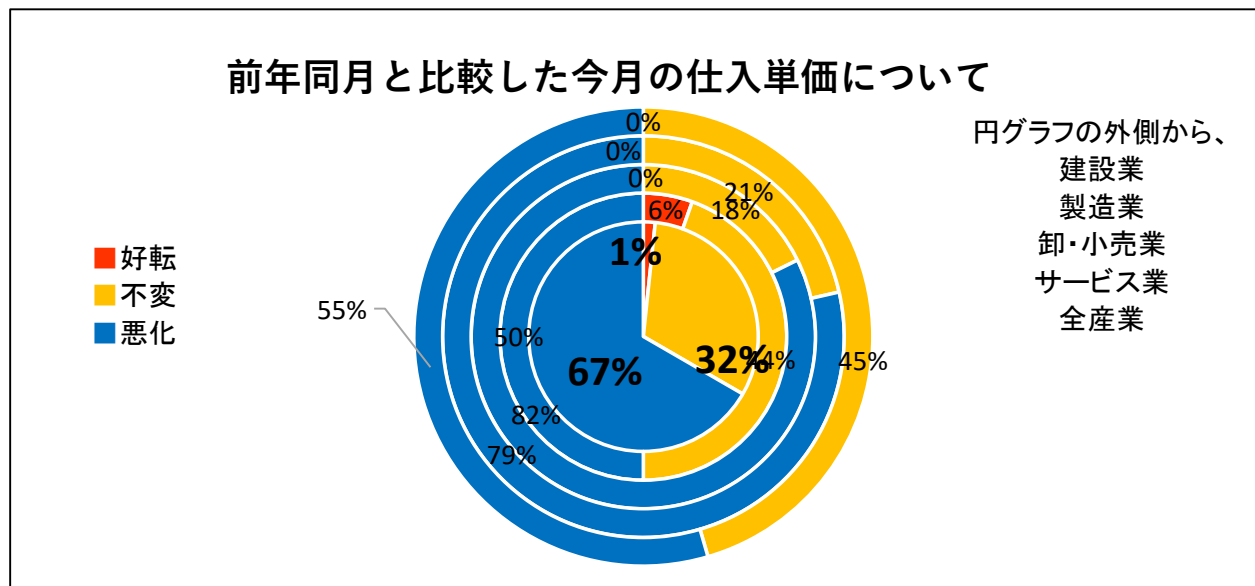
	令和8年						先行き見通し	
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8~10月 (	7~9月)
全産業	▲ 21.8	▲ 21.2	▲ 22.5	▲ 22.5	▲ 15.2	▲ 28.3	▲ 13.3 (	▲ 11.8)
建 設	± 0.0	▲ 8.3	▲ 23.0	▲ 23.0	▲ 40.0	± 0.0	± 0.0 (	▲ 40.0)
製 造	▲ 33.3	▲ 20.0	▲ 12.5	▲ 12.5	± 0.0	▲ 14.2	± 0.0 (	▲ 7.1)
卸・小売	▲ 44.4	▲ 30.0	▲ 35.2	▲ 35.2	▲ 31.5	▲ 70.5	▲ 35.2 (	± 0.0)
サービ ス	▲ 5.5	▲ 21.0	▲ 18.7	▲ 18.7	△ 6.2	▲ 16.6	▲ 11.1 (	▲ 12.5)



【仕入単価について】

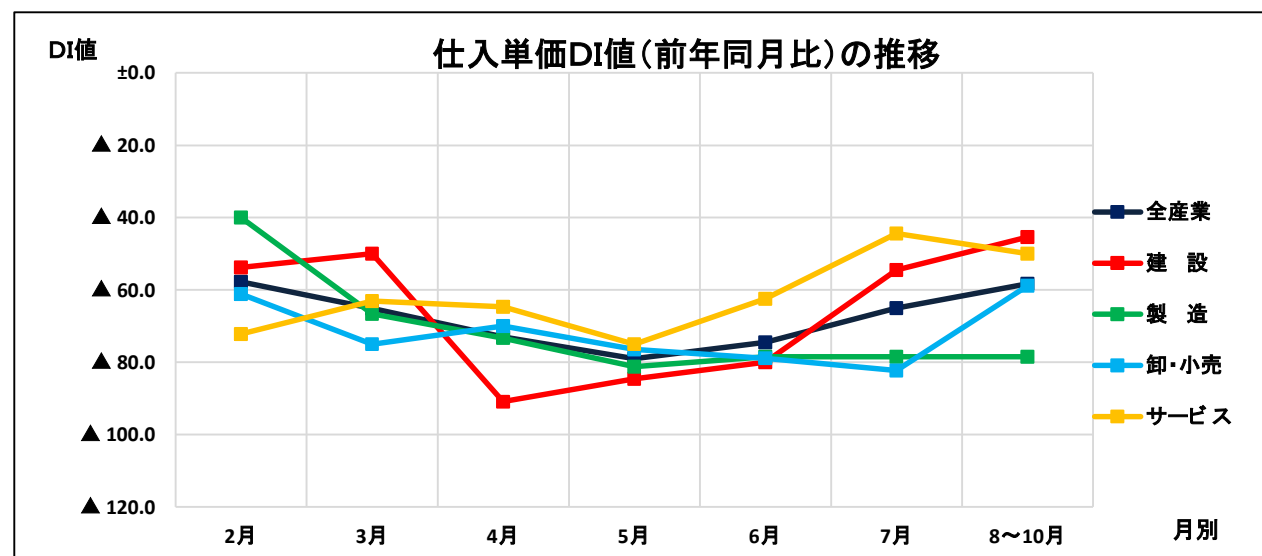
○ 7月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲ 6 5. 0 (前月水準▲ 7 4. 5) となり、マイナス幅 9. 5 ポイント縮小した。

○ 向こう 3 ヶ月 (8月から10月) の先行き見通しについては、全産業では、▲ 5 8. 3 (前月水準▲ 6 1. 0) となり、マイナス幅が 1. 7 ポイント縮小した。



仕入単価D I 値 (前年同月比) の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

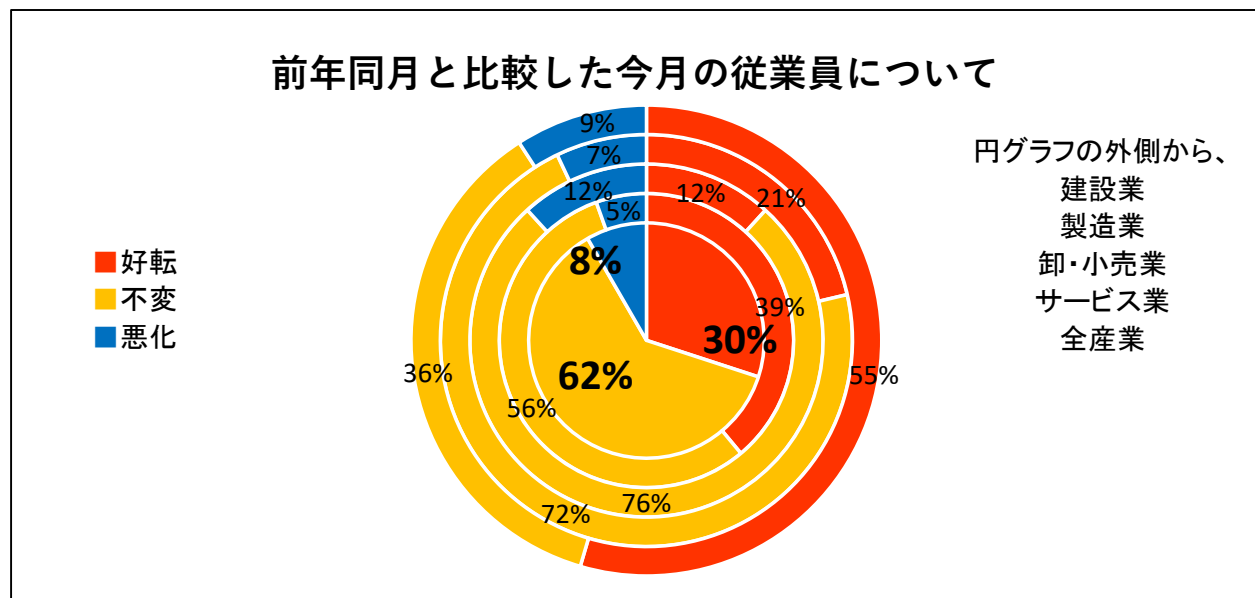
	令和8年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月 (7~9月)
全産業	▲ 57.8	▲ 65.1	▲ 73.0	▲ 79.0	▲ 74.5	▲ 65.0	▲ 58.3 (▲ 61.0)
建 設	▲ 53.8	▲ 50.0	▲ 90.9	▲ 84.6	▲ 80.0	▲ 54.5	▲ 45.4 (▲ 80.0)
製 造	▲ 40.0	▲ 66.6	▲ 73.3	▲ 81.2	▲ 78.5	▲ 78.5	▲ 78.5 (▲ 85.7)
卸・小売	▲ 61.1	▲ 75.0	▲ 70.0	▲ 76.4	▲ 78.9	▲ 82.3	▲ 58.8 (▲ 52.6)
サービ ス	▲ 72.2	▲ 63.1	▲ 64.7	▲ 75.0	▲ 62.5	▲ 44.4	▲ 50.0 (▲ 37.5)



【従業員について】

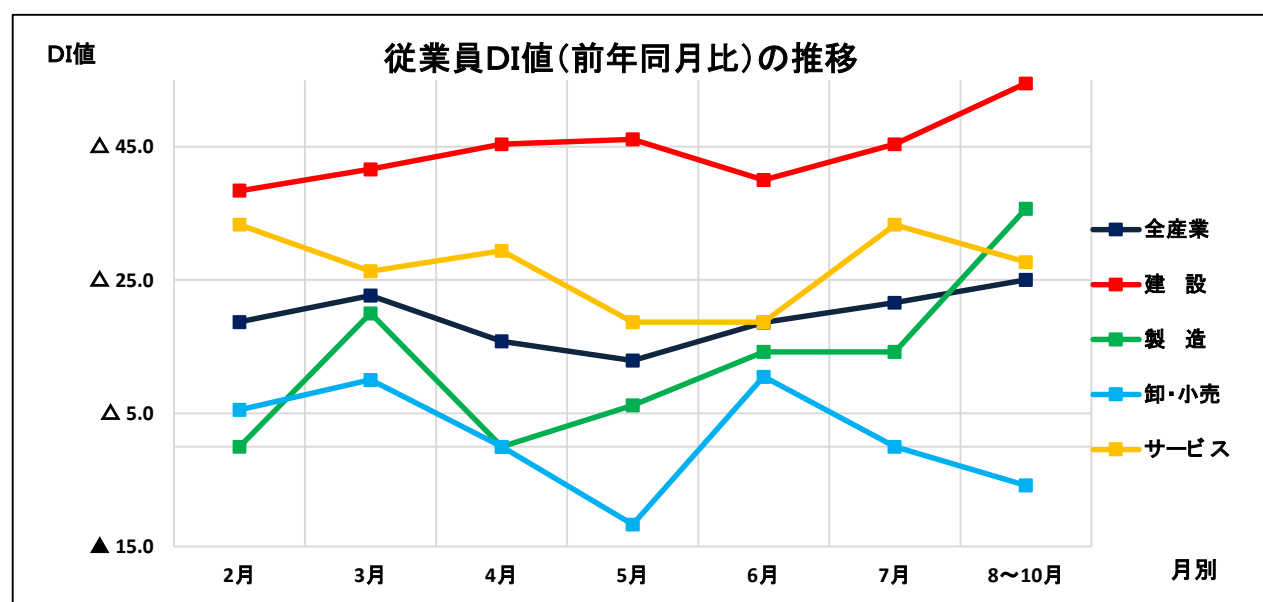
○7月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△21.6 (前月水準△18.6) となり、プラス幅が3.0ポイント拡大した。

○向こう3ヶ月(8月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、△25.0 (前月水準△9.8) となり、プラス幅10.2ポイント拡大する見通しである。



従業員D I 値 (前年同月比) の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和8年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月 (7~9月)
全産業	△ 18.7	△ 22.7	△ 15.8	△ 12.9	△ 18.6	△ 21.6	△ 25.0 (△ 15.2)
建 設	△ 38.4	△ 41.6	△ 45.4	△ 46.1	△ 40.0	△ 45.4	△ 54.5 (△ 40.0)
製 造	±0.0	△ 20.0	±0.0	△ 6.2	△ 14.2	△ 14.2	△ 35.7 (△ 7.1)
卸・小売	△ 5.5	△ 10.0	±0.0	▲ 11.7	△ 10.5	±0.0	▲ 5.8 (△ 5.2)
サービ ス	△ 33.3	△ 26.3	△ 29.4	△ 18.7	△ 18.7	△ 33.3	△ 27.7 (△ 18.7)

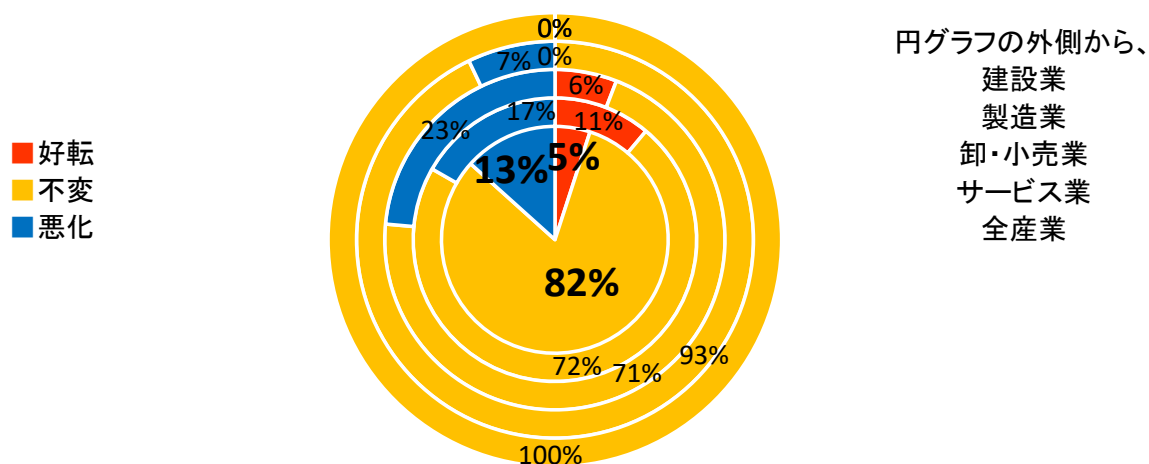


【資金繰りについて】

○ 7月の全産業合計のD I 値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲ 8. 3 (前月水準▲ 1 3. 5) となり、マイナス幅が5. 2ポイント縮小した。

○ 向こう3ヶ月(7月から10月)の先行き見通しについては、全産業では、▲ 1 5. 0 (前月水準▲ 1 0. 1) となり、マイナス幅が4. 9ポイント拡大する見通しである。

前年同月と比較した今月の資金繰りについて



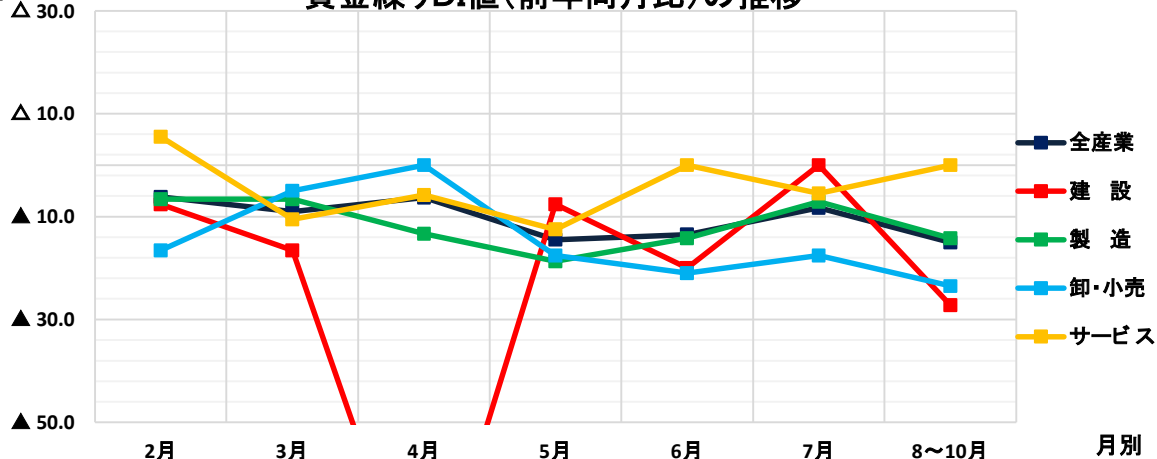
資金繰りD I 値(前年同月比)の推移

※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和8年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月 (7~9月)
全産業	▲ 6.2	▲ 9.0	▲ 6.3	▲ 14.5	▲ 13.5	▲ 8.3	▲ 15.0 (▲ 10.1)
建 設	▲ 7.6	▲ 16.6	▲ 90.0	▲ 7.6	▲ 20.0	±0.0	▲ 27.2 (▲ 30.0)
製 造	▲ 6.6	▲ 6.6	▲ 13.3	▲ 18.7	▲ 14.2	▲ 7.1	▲ 14.2 (▲ 14.2)
卸・小売	▲ 16.6	▲ 5.0	±0.0	▲ 17.6	▲ 21.0	▲ 17.6	▲ 23.5 (±0.0)
サービ ス	△ 5.5	▲ 10.5	▲ 5.8	▲ 12.5	±0.0	▲ 5.5	±0.0 (▲ 6.2)

DI値

資金繰りDI値(前年同月比)の推移

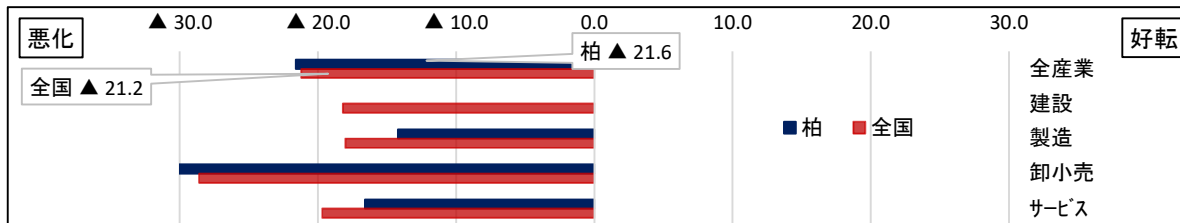


全国（CCI-LOBO）との比較

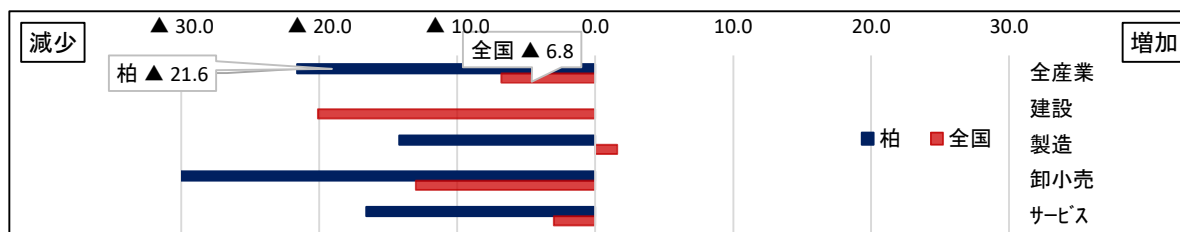
【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の 景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

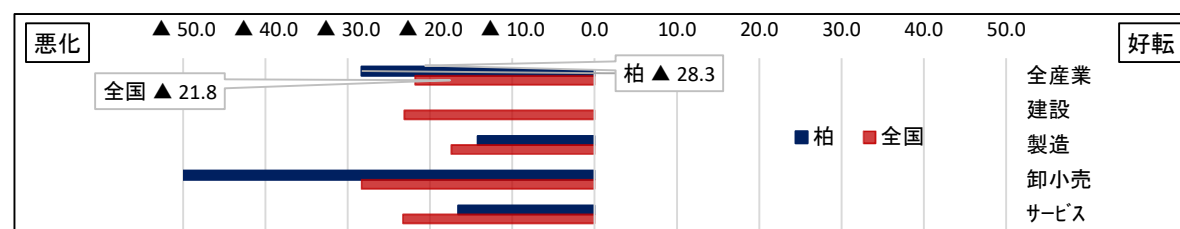
【業況D I】



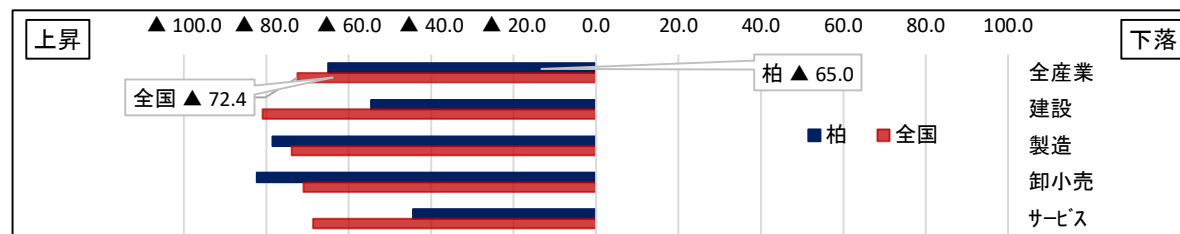
【売上D I】



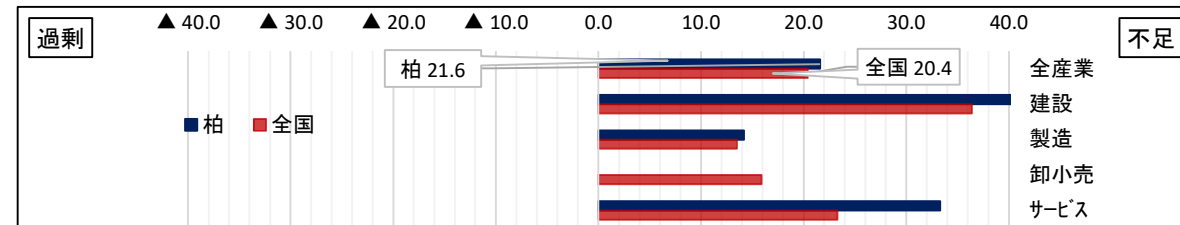
【採算D I】



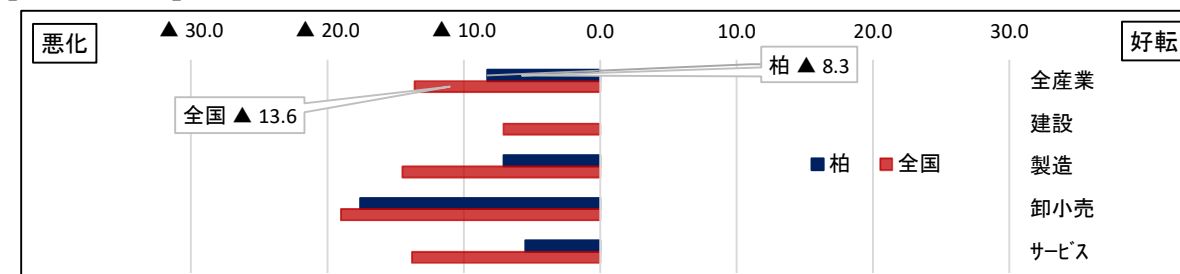
【仕入単価D I】



【従業員D I】



【資金繰りD I】



【業種別】 業界内トピックス

業種別	概 況	業種
建設業	昨年より売上が悪化している要因としては、梅雨明け前後での様々なイベントやボランティア活動が重なり、営業活動が低調だったことによる。今後は協会等のボランティア活動を業務に生かしていくことが重要である。また、採算性の悪い業務も重なったため、採算性を向上させることに注意したい。	地質調査・地質コンサルタント
	資材価格の高騰は一服せず高止まりの状態。木造住宅の建築費指数は前年同月比+5.9%と上昇トレンドに歯止めがかかっていないほか、職人の労務単価も上昇し、原価管理が難しい。建築費上昇に加え、住宅ローン金利の先高観から一次取得層の買い控えが進んでいる。検討期間が延び、契約までのリードタイムが長期化	一般土木建築工事業
製造業	医療品容器に新企画が立ち上がり活気を帯びてきたが化粧品容器に関してはまだ勢いに欠ける	プラスチック加工
	イランの状況と原油価格の状況で不安定要素はあるが現状は景気上昇傾向である。	一般産業用機械・装置製造業
卸・小売業	6月の最高気温が昨年より5℃前後低くなり夏物の動きが業界全体で悪く、自店も衣料品と住居余暇商品で大きな打撃を受けた。その他、食料品では米と飲料とアイスのマイナスが大きく、とてもカバーできるものではなかった。7月の第2週目より最高気温が30℃を超え出し夏物が一気に動いている。例外は水着と浴衣で動きは重い(浴衣は柏祭りの日程変更が考えられる)7月の売上予算は確保の見込みだが6月のマイナスまでは取り返せない。	大型小売店
	前年と比較ならほぼ毎月悪化。3ヶ月先の不変は希望(実際は上昇の予定)。	その他の各種商品小売業
サービス業	9月に丸井跡テナントがnewオープンするので駅前が再び活気あふれるのが嬉しい。	不動産賃貸業
	今年も猛暑の影響で来場者が減少傾向にある。客単価は上昇しているのが救い。修繕工事をや設備投資の金額が上昇し続けており利益を圧迫している。	ゴルフ練習場
	円安、中東情勢等の紛争による物価高を懸念。	不動産賃貸・管理業
	猛暑の影響によりお客様の来場は鈍い。また、住宅金利が上昇している事や、土地や建物の価格の高騰により購買意欲が低くなっている。全体的に顧客の動きは減少しています。	不動産管理業

調査要領

回答期間

令和8年7月22日 ～ 令和8年8月3日

調査対象

柏市内173事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	173	60	34.7%
建設	38	11	28.9%
製造	44	14	31.8%
卸・小売	46	17	37.0%
サービス	45	18	40.0%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

DI = （増加・好転などの回答割合）－（減少・悪化などの回答割合）

※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調 	好調 	まあまあ 	不振 	極めて不振 